

2024 年 7 月 24 日(水)1 時限

2024 年度・日本政治外交史 I ・学期末試験問題

□解答上の注意

- 1 この試験は持ち込み不可です。
- 2 設問順に解答してください。
- 3 解答用紙の解答欄は、各自で調整の上、作成してください。
- 4 解答用紙は 1 枚（両面使用可）のみです。
- 5 指定行数を守り、1 行の文字数は常識の範囲内で少なすぎないように注意してください。

〔問題 I -A〕(10 問×2 点)

主に日本と近隣諸国関係に関連する以下の略年表の()に当てはまるもっとも適切な語句((b)(c)(e)の人名はフルネームで、年号は西暦で)を記入してください。解答は設問順に(a)△△というように記入してください。

〈略年表〉

- 1840 年 アヘン戦争が始まる。
1842 年 (a)を定めて外国の遭難船に対する対応を決める。
1885 年 日本の(b)と清朝中国の(c)との間で(d)条約が締結される。
1890 年 第 1 回帝国議会において(e)首相が施政方針演説をおこなう。
1894 年 農民反乱の(f)が起きる。(g)通商航海条約の締結。日清戦争が始まる。
1900 年 義和団事件。
(h)年 日比谷焼打ち事件。
(i)年 第 3 次日韓協約。
1909 年 アメリカの国務長官のノックスが(j)を提案。
1910 年 韓国併合。

【解答例】

- a 天保の薪水給与令 b 伊藤博文 c 李鴻章 d 天津 e 山県有朋
f 東学党の乱 g 日英 h 1905 i 1907 j 満鉄中立化(案)

〔問題 I -B〕(1 問×10 点)

以上の略年表を参考にしながら、なぜ第一次世界大戦までの日本は、近隣諸国との間で持続可能な協調・提携関係を築けなかったのか、解答用紙 5 行以上 10 行以内で、可能な限り具体的に論述してください。

【解説】

以下の事項に言及しているかどうかの評価のポイントです。文章表現の巧拙は問いません。

- ① 日本と近隣諸国との間に近代化の速度の違いがあったこと。
- ② 日本そのものが反植民地化・植民地化の危機に瀕しながら、「脱亜」によってこの危機を乗り越えようとしたこと。
- ③ 同時代が帝国主義の時代だったこと。

〔問題Ⅱ－A〕(10問×2点)

以下の文章の()に当てはまるもっとも適切な語句((3)と(4)の人名はフルネームで、年号は西暦で、(5)は英字の略記で、(8)は政党の名称を漢字5文字で)記入してください。解答は設問順に各自で(1)××というように記入してください。

(1)年に開催されたパリ講和会議において、日本は(2)条項を国際連盟規約に入れるよう主張したものの、実現しなかった。その後、日本は国際連盟に加盟する。国際連盟において日本は、(3)が国際連盟事務局次長として、あるいは(4)が国際連盟帝国事務局長として活躍する。また日本は労働者の保護を目的とする国際機関＝(5)にも加盟する。

他方で中国大陸では風雲急を告げていた。蒋介石の(6)にともなう国際関係の緊張と北伐によって、1927年に(7)事件が起きる。対する日本は山東出兵に踏み切る。あるいは張作霖爆殺事件を引き起こす。ところが1930年になると、(8)の内閣がロンドン海軍軍縮条約を締結する。しかしその翌年の9月18日に(9)事件が起きる。この事件をきっかけとして、(10)のクーデタとしての満州事変が拡大することになった。

【解答例】

1 1919 2 人種平等 3 新渡戸稲造 4 佐藤尚武 5 ILO 6 北伐 7 南京
8 立憲民政党 9 柳条湖 10 外から

〔問題Ⅱ－B〕(1問×10点)

以上の文章を参考にしながら、近代日本において国際協調外交が成立した歴史的な条件とは何か、解答用紙5行以上10行以内で、可能な限り具体的に論述してください。

【解説】

第一次世界大戦の形式的な戦勝国ではあっても戦勝国となった日本が戦後世界秩序に応分の責任を果たさなくてはならなくなり、しかも国際的なデモクラシーの時代が訪れたことに言及することが求められています。国際的なデモクラシーの潮流が東アジアにも波及して、中国ナショナリズムに対応することができたのはなぜか、またそれにもかかわらず1930年代の危機を招いたのかを考えれば、そこから求められている「歴史的な条件」をまとめることができます。

〔問題Ⅲ－A〕(10問×2点)

以下の文章の()に当てはまるもっとも適切な語句を((オ)の人名はフルネームで)記入してください。解答は設問順に各自で(ア)○○というように記入してください。

第1次世界大戦は、歴史上、初めての(ア)となった。他方でこの戦争下の「スペイン風邪」とその後の関東大震災をとおして、日本では社会的な格差の問題が意識されるようになった。1930年代になると、これらの問題は日中全面戦争が起きたことによって、新たな局面を迎える。日中両国は宣戦布告をおこなわなかった。宣戦布告をおこなわなかったのは、アメリカの(イ)の発動を免れるためだった。この間、両国は和平を求めて(ウ)工作に期待した。しかし実現することはなかった。日本の戦争目的は迷走する。当初の戦争目的は、1938年11月3日の(エ)声明によって修正された。それでも戦争終結の目途は立たなかった。

状況を打開するために、(オ)外相の外交指導の下、1940年に日独伊三国同盟を締結

する。ところが翌年6月22日に（カ）が始まったことによって、日本外交は方向感覚を失う。

以上の時期の日本国内の状況に目を転じると、1938年1月に中央官庁の一つとして（キ）が設置されていることに気づく。このことは社会的な格差の問題に対する一つの対応だったことがわかる。戦時下、日本の国内状況は大きく変動していたのである。

さらに1941年11月26日にアメリカ側から（ク）が提出されると、翌月8日、日本は真珠湾攻撃をおこなう。緒戦の勝利は長くつかず、1年も経たないうちに劣勢に陥る。戦争終結へと向かうきっかけとなったのは、1944年前後に1920年代の体制勢力による（ケ）が結成されたからだった。1945年4月5日、ソ連が（コ）条約の廃棄の意思を通告する。日本が降伏したのは、それから約4か月後のことだった。

【解答例】

ア 総力戦 イ 中立法 ウ トラウトマン エ 東亜新秩序 オ 松岡洋右
カ 独ソ戦 キ 厚生省 ク ハルノート ケ 反東条連合 コ 日ソ中立

〔問題Ⅲ－B〕（1問×10点）

以上の文章を参考にしながら、戦争の社会変革作用は、近代日本にどのような変容をもたらしたのか、解答用紙5行以上10行以内で、可能な限り具体的に論述してください。

【解説】

戦前＝「戦争とファシズム」対戦後「平和と民主主義」の2項対立図式を相対化する視角から論述することが求められています。戦時「国家社会主義」の持つ「民主化」に言及しながら、そのような「国家社会主義」化への体制の危機意識が戦争終結をもたらしたことにもふれる必要があります。